

## ■ 生と死は神一重（かみひとえ）

今現在、生きている人の致死率は100%である。

健康に関係なく、間違いなくいつかはこの世を去る事になるのです。

「そんな事言われなくても解っている」と、誰でも思うでしょう。

病人でもない限り大方の人は、そんな事は日常生活では完全に忘れていた筈です。

しかし、年齢に関係なく「あの時、一つ間違っていたら死んでいた」と、思える経験を

された事はありませんか？ 危うく大交通事故になるところだったとか、

もう少し発見が遅れていたら癌死していたとか、または、打ち所が違っていたら即死だったとか、

あの部屋だったら、間違いなく焼死んでいたかもしれない……

勿論、私も車に関係する事で2回経験があり、それでもたまたま運が良かっただけでしょうか。

人生には様々な分岐点があり、その行く先で幸不幸が決まるのです。

分岐点で進む方向を自分で考えて決めていたと思っていたら大間違いです。

何かしらの力で行く先を決められて、結局は良い方向に助けて貰えたのか、

若しくは悪い方向に操られたのかは、その先の結果で必ず自分で分かるはずで

人生の連れ合いとの縁なんか最たるもので、勤め先との縁、友人との縁もそうです。

経験から言いますと、人生に決して運とか偶然とかでは無いのです。

全ての命は、完全に「何かの力」に握られています……これが私の持論です。

生命の糸を切られるか、切られないかは、善人、悪人とか関係ないと思います。

長生きの悪人もいますし、その逆で善人でも早死にする人もいます。

それならば、生と死を分けるのは何なのだろうと思うのですが、

その人が、この世に生まれる時の約束ではないだろうかと思うのです。

「人生は自分の為に生きる時間は与えられていない」だから「人の為になせよ」と……

そのように常日頃思っている人は、必ずどんな時でも助けて貰えるのです。

という事は、誰からか「いつも見られている」という事になります。

助けるのは、神様なのか守護霊なのかは私には解りません。

たった一言ですが、すごく厳かであり、脳に直接飛び込んできます。

神様にもご先祖様にも、「今、生かされて生きている奇蹟」の感謝だけを伝える事が、  
本当の幸せになる秘訣だと思います。

この世を一人で去る時は、「やっと務めを終わらせて貰えた」といましょう。

自分の体とて持って行けない無一物、この世の経験だけ持って潔く死ねば良いのです。

どうせまた、修行と経験を積むために自分から好んでやってきます……何回も。

2020.12.31 井手広行